

危険！ 洗剤の専用容器 以外への移し替え使用

住居周りの掃除に使う洗剤。それぞれの製品の容器は、内容液の特性や用途に合わせて設計されています。特に、内容液が強い酸性やアルカリ性の場合や、次亜塩素酸ナトリウムなどの酸化剤を含む場合は容器の材質、強度、機能性などが慎重に検討され、使用時だけでなく保管時にも安全が保たれるように設計されています。

これらの製品を専用容器以外に移し替えて使用することは、**思わぬ事故につながる場合があります危険です。**

専用容器以外への移し替えが原因で起こった事故として次のようなものがあります。

『駅のホームでアルカリ性の洗剤を入れたアルミ缶が、バーン！という大きな音を立てて破裂し、内容液が噴出。通行人が被液して足や顔に化学やけどを負ってしまった』

アルミ缶の持ち主は、勤務先で使っていた業務用のアルカリ洗剤を自宅で使おうと思い、ボトル型の缶コーヒー用のアルミ缶に移し替えて持ち帰る途中だったとのこと。本人は破裂するとは思わず軽い気



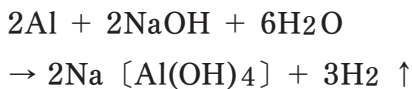
持ちでやったことですが、過失傷害の疑いで書類送検されてしまいました。件数は多くないものの、これ以外にも、同様の破裂事故は複数件報告されています。

なぜ、このような事故が起きたのでしょうか？

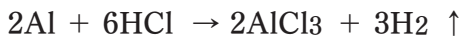
一般に、業務用製品は家庭用製品に比べて要求性能が高く、アルカリ洗剤も、家庭用では使われない水酸化ナトリウムや水酸化カリウムを配合し、強いアルカリ性に設計されているものが多くあります。アルミニウムは両性金属といって、酸やアルカリに溶解する性質があり、溶解すると水素ガスを生じることが知られています。1gのアルミニウムからは1,336mlもの水素ガスが発生するのです。

上記の事故では、密閉された容器の中に水素ガスが溜まり、缶の内圧が高まり破裂したものとされます。

アルカリ：



酸：



この事故事例は、アルカリ性が強く汚れ落ちのよい業務用洗剤でのトラブルですが、酸性洗剤でも同様の現象が起きます。また、業務用、家庭用を問わず製品の液性によって同様の現象が起きます。

酸やアルカリは皮膚や目に対する刺激性が高く、噴出した液を被ると化学やけどを起す、目に入ると失明の恐れがあるなど大変に危険です。製品表示で液性がアルカリ性または酸性と表示されている製品のアルミ缶への移し替えは絶対に止めましょう。

紹介した事故事例に限らず、製品は内容液と容器を合わせて品質、性能、安全性が

設計されています。使うのは内容液だからといって、専用容器以外への移し替え使用は危険を伴います。

また、容器には商品名をはじめ、用途、使い方、成分、使用上の注意、応急処置など、その製品にとって重要な情報が表示されています。移し替えて使用すると、これらの情報を見ることができなくなってしまいます。移し替えた本人以外は、中に何が入っているのか知り得ませんし、本人も時間の経過とともに移し替えたことを忘れてしまうこともあり、誤使用や誤飲につながることもあります。

いずれにせよ、“洗剤の専用容器以外への移し替え使用は厳禁”であることを心に留めておいてください。

